

## 論文内容の要旨

# Saliva Secretion Is Significantly Lower in Female Patients with Mild Reflux Esophagitis than in Female Healthy Controls

軽症逆流性食道炎の女性患者は健常者女性と比較して唾液分泌能が低下している

日本医科大学大学院医学研究科 消化器内科学分野

大学院生 門馬絵理

Digestion. 2023 Feb ;104(4):299-305 掲載

私たちの研究グループは、胸やけや呑酸が主症状である逆流性食道炎について研究を行っている。本邦でも逆流性食道炎は食事の欧米化やピロリ菌感染率の低下に伴い増加傾向であり、病態の追及は多くの患者の利益になると思われる。近年、唾液と逆流性食道炎の関係に注目している。唾液は酸のクリアランスに関わっているのではないかと予想しており、逆流性食道炎食道炎の病態にも関与していると考えられる。唾液分泌量、唾液 pH、酸緩衝能などの唾液分泌能を測定し、その関連性について検討を行っている。以前の研究で、軽症逆流性食道炎患者では唾液分泌量が健常対照群と比較して低下している、ということがわかった（参考論文 1）。しかし、女性ではそもそも唾液量が低下しているという報告があり、唾液分泌能の男女差について検討を行ったところ健常対照群、軽症逆流性食道炎患者群、非びらん性胃食道逆流症（NERD）患者群、重症逆流性食道炎患者群、いずれの群においても男性と比較して女性の刺激唾液分泌量が低下していることがわかった（参考論文 2）。基本的な唾液分泌能に男女の差があることがわかり、逆流性食道炎の病態を考慮するにあたり、性差を考慮した検討が必要と考えた。今回、男女別に健常対照群と軽症逆流性食道炎患者において唾液分泌能について検討を行った。軽症逆流性食道炎は上部消化管内視鏡検査のロサンゼルス分類で GradeA または B の患者である。軽症逆流性食道炎患者の男性 25 名、健常対照群の男性 25 名、軽症逆流性食道炎患者の女性 24 名、健常対照群の女性 24 名を対象とし、男女別の唾液分泌能について後方視的に検討を行った。唾液分泌能の評価はすべて上部消化管内視鏡検査前に行っており、朝絶食の状態で行った。各患者は 3 分間無糖ガムを咀嚼し、その間に口内にたまった唾液を専用容器にだし、唾液量を測定した。また唾液 pH は pH 測定器を用い測定した。その後、一定量の酸を負荷し、攪拌した後の pH を測定し、酸緩衝能とした。患者の背景は年齢、胃粘膜萎縮の有無、食道裂孔ヘルニアの有無、BMI の因子で男女別に評価を行った。男性では、年齢、胃粘膜萎縮の有無、BMI において軽症逆流性食道炎患者と健常対照群では有意な差を認めなかった。食道裂孔ヘルニアは軽症逆流性食道炎患者で有意に多かった。女性でも各因子については同様の結果であった。刺激唾液量については、男性では軽症逆流性食道炎患者と健常対照群で有意な差を認めなかった ( $p=0.5032$ )。女性では軽症逆流性食道炎患者で有意に低下していた ( $p=0.0023$ )。唾液 pH については、男性は軽症逆流性食道炎患者と健常対照群で有意な差を認めなかった ( $p=0.8843$ )。女性でも有意な差を認めなかった ( $p=0.4333$ )。酸緩衝能については、男性では軽症逆流性食道炎患者と健常対照群で有意な差を認めなかった ( $p=0.2646$ )。女性では軽症逆流性食道炎患者でわずかに低下している傾向があった ( $p=0.0578$ )。以上から女性はそもそも性別として唾液分泌量が低下しているが、軽症逆流性食道炎患者においてはさらにその病態により唾液分泌量が低下していることがわかり、食道における酸のクリアランスが低下し、軽症逆流性食道炎の発症に関与している可能性が考えられた。今後唾液分泌量に注目した治療の開発なども女性においては有効である可能性が示唆された。

参考論文 1 Saliva secretion is reduced in mild reflux esophagitis patients 軽症逆流性食道炎患者では唾液分泌低下している Esophagus 19 巻 2 号 掲載 (2022 年 4 月発行)

参考論文 2 Saliva Secretion in Patients With Gastroesophageal Reflux Disease and Healthy Subjects is Significantly Lower in Females Than in Males 胃食道逆流症患者と健常患者の唾液分泌能は男性と比べて女性が低い Cures 15 巻 5 号 掲載 (2023 年 5 月 15 日発行)